



114
A2994

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

私苦儀以至至賤之身仰事

俯保毫釐遂憺世之生活死

乃之儀之全ク

皇政仰一新之仰恩澤之幸蒙其

故之幸上蒙其夫然之心上心力致

其し報効し道哉謀りふりて
少おし年く日々者儀仕り共里
蒙し私共為差名案に廿五
竊く俯考仕共、差向浪華表
し儀も中玉及南溟西海し

咽候と有之殊々年々府
に為帝系付とも美西第
繁盛に立至壽却る追
衰微に為り幾し全悟好し港
湾世に船多しふ直より

船艦一出入を減送る諸色し
賣買を運ぶる力も亦るは心
所共する儀し上出金築港士度
存存以て其の件を申すは
近來當代衰微に属するは

貸附を著しし融通を以て
積立の由一金圓に世の望
苦心を著しし以て所儀を以て
及此の諸根を共旧各の所
印用立する金圓送

政府の口は下可也其の証
の望は左の如く私共が口は下
の用立の事、總之、大凡千八百
万の如く然る者其の如く右の如く
其の如く振るる如く右の如く以て

の如く多きこと十年限りの如く
猪鬃の如く入り如く外港の如く
の如く築造し如く費用の如く充て
の如く引揚し儀の如く港の如く成り
の如く港運上成り如く追々如く

口通右内申し儀ハ私共北江府
とふくし者共といはつ共
聊是はしは方七陽望考る旨
度成切は私共精々及方は及
幸存有方といはし陰私艦

し出入諸色し賣買日幾追る
繁盛は無庶産業と有付は私
能外当地のこみ世に望則申
玉及右内海西海諸島し繁盛
陰と右増の申し者私共玉恩

七年報し淑志を達し申哉よ
存、以出格し仰評儀仰
採用と承ふ、一、二難有は存在

存及以上

申
六月

